

昭和31年2月20日第三種郵便物認可 平成30年5月31日発行(本誌日発行) (5月24日発売) 第88巻第20号

週刊新潮

5月31日号
400円



20

「西城秀樹」 傷だらけのブ

▼ 献身的介護の「18歳年下妻」は実姉がとりもち役
 ▼ 実はヘビースモーカー！危険な減量と爆食い！
 ▼ 20年前からインシュリン注射！
 ▼ 「山口百恵」から恋文！「松田聖子」が入院先を見舞つても
 本命は12歳年上のあの女優



74年、「傷だらけのローラ」の絶唱



「もう一度『ヤングマン』や『傷だらけのローラ』を歌って踊れるようになりたい、という最終目標があったから。4月25日も14時から17時まで、いつも通りにトレーニングし、笑顔で帰っていきました」
 しかし、その晩、意識を失って病院に緊急搬送され、

40代で糖尿病にも

意識が戻らないまま、5月16日に亡くなった。
 「以後も毎日予約が入っていたのになくて。7日にマネージャーさんから、仕事が多忙しくて、12日から行く、と連絡が入りましたが、

来ない。14日に奥さんに電話すると、落ち着いたら行きます」と言われました。
 みなさん、西城さんが意識を取り戻すと信じて、それまで隠しておこうと思っただけでしょうね」

献身的な18歳下の妻、美紀さん(45)の評判は近所でも上々で、
 「3年前、持ち回りの班長の役に就いたときも、回覧板を回したり自治会費を回収したりするときの態度が素晴らしく、面倒な素振りも一切見せない。言葉の端々に賢さがにじみ出て、西城さんを支えて歩いているときも、いつも気持ちよく挨拶してくれます」

のお父さんで、不動産や施設整備などの事業を手がけていた榎原博實さんとは、一緒にゴルフをしたりする仲でした」
 事情通がそう語る。

と70代の男性。01年に秀樹と結婚して、翌年には長女を出産、長男を妊娠中に夫が最初の脳梗塞を発症するが、その翌年には次男を産んでいる。
 「01年7月、新高輪プリンスホテルで披露宴が行なわれました。秀樹は美紀さん

「でも、先に美紀さんと知り合ったのは、大阪の北新地のクラブのママだった秀樹の実姉です。いいお嬢さんがいるからと、弟に引き合わせたんです。秀樹はお姉さんにはまったく頭が上がらなかつたんです」
 ともあれ、もう少し早く身を固めていれば不幸は防げただろうか。76年から23年間、マネージャーを務めた天下井隆二氏は、

「秀樹さんは健康的なイメージで売っていたこともあって体を鍛えていて、空き時

間があればジムに通い、毎週、ニューオータニのサウナにも通っていました。その一方で酒は飲み、タバコもセブンスターを1日3、4箱吸っていました」

と打ち明け、続ける。

「タバコについては、ある年の正月に何人かで、今年禁煙しよう」と決めたんですが、春にロケ先の香港から「ダメだ、イライラして吸っちゃった」と電話がありました。禁煙を1年続けた僕は、秀樹さんから700万円するダイヤの時計を贈られましたよ。自分ができることへのリスベクトがあったのでしょう。お酒に関しては、紅白歌合戦の打ち合わせに珍しく遅刻して、原田芳雄さん、松田優作、桃井かおりと朝まで飲んじゃって」と言っていた

ことがありました」

結果として、早くから病氣と無縁ではなかった。

「84年、髄液が漏れて脳圧が下がる低髄液圧症候群という病気で1カ月ほど入院し、一時は面会謝絶になるほどでした。それに、実は

秀樹さんは糖尿病でした。96年か97年、秀樹さんと僕

とで健康診断を受けたら二人とも血糖値が高く、僕は糖尿病と診断されて薬を処方され、秀樹さんはインシュリンで治療することに。

コンサートなどで激しく動き、その後打上げなどで爆食いすると、血糖値の上がり下がりの幅が大きくなりすぎるんだそうです」

健康以外の秘話も交えてもらおうと、

「79年の正月コンサートで『Y.M.C.A.』を歌うと反響が大きく、急遽2月下旬のレコード発売が決まりましたが、スケジュールに無理があるという。秀樹さんと一緒に製造工場を訪れると、従業員が残業になるので、従業員が残業になるので厳しい」と工場長。そこで秀樹さんは、従業員に集

まってもらってビールケース上で歌い、こんな素敵な曲が出ます。残業をお願いできますか」と。みなさん、いいですよ」と答えてくれたんです」

「付き合うのはやめろ」

ところで、天下井氏は秀樹と喧嘩したことが3回だけあるという。

「超多忙の秀樹さんが、飯ぐらい食わせろ」と言うので、俺も食ってません」と返したのが2回。残り1回は、秀樹さんが付き合っていた女性芸能人が、性悪女だ」と噂を聞いて、あんな女と付き合うのはやめろ」と言うので、好きになるのは勝手だろ」と返すので、あんなの後ろにどれだけファンがいると思ってるんだ」と怒ったんです。結局、その方とは別れてしまいましたね」

ほかに女性関係はどうだったのだろうか。「アイドル時代は女性と遊

「スナックで『ヤングマン』歌ってくれよ」と頼まれると、僕が断つてもいいから、歌うよ」と。ただ自分の曲を歌うと仕事になってしまいうので、細川たかしさんの『北酒場』とかを歌っていました」

ぶ暇もなく、そもそも女遊びは激しくない。一度好きになると、浮気もしなかったですね。低髄液圧症候群で入院したときは、松田聖子が密かにお見舞いに来てくれましたが、(郷)ひろみ

はいいなあ。いつもこんなかわいい子がそばにいてくれて、なんて笑っていた」と天下井氏。テリー伊藤氏も逸話を披露する。

「秀樹さんから、実は、山口百恵ちゃんは僕のことが好きで、ラブレターももらったことがあるんです。聞いていたんですよ。駆け出しのころの百恵ちゃん、でも付き合わなかったんだって。同じ業界内で付き合うのはカッコ悪いと思ったんだ

ですよ」と

名立たるアイドルには見向きもせず、89年から浮名を流した相手は12歳年上の十朱幸代だった。

「演技のこととか、仕事についてアドバイスをもらっている。年上の彼女には自分をさらけ出せる。そういうキャパシティがあるから好きなんだ」と話していましたね」(天下井氏)

だが、やがて破局。瘦身のスポーツマンも、40代半ばまで独り身でいたばかりに病を呼び寄せてしまったのか。秀樹の知人が言う。「結婚して子どもも生まれ、張り切りすぎた。それまでも181センチ、70キログラム強を維持していましたが、よい仕事につなげるためにもさらなる減量をめざし、3時間汗を流して最後はサウナに入る。しかもその間、水はあまり飲まない、という過酷なダイエットに臨み、数キロ減量したんです」

それがたまたまのか、直後、最初の脳梗塞に。くどくどあき脳神経外科クリニックの工藤千秋院長が言う。

「タバコや過度の飲酒は動脈硬化を促進する要因になります。タバコは血中酸素を減らし、煙にふくまれる過酸化水素は血管の内皮を傷つけます。すると傷ついた部分にコレステロールや血小板が詰まってかさぶたができ、それが厚くなると血管が詰まって梗塞になるのです。水分をあまり摂取しないダイエットは最悪。」

リハビリの負担が蓄積か

すると気になるのが、秀樹がインシュリンを投与されていた、という証言である。東京慈恵会医科大学客員教授の阪本要一氏は、「病院で血糖値が高いと診断され、インシュリンを投与されていたなら、西城さんが糖尿病と診断されていたのは間違いないと思う」と見立てて、続ける。

「糖尿病の状態が続くと、血管の内皮細胞が異常をきたして動脈硬化が進み、脳の血管が詰まって脳梗塞などを引き起こす危険性がより高まります。また、糖尿

激しい運動で汗をかいたあとに水分をとらなければ、血液はドロドロになってしまうことでしょう」

秀樹が思ったのは「ラクナ梗塞」だという。

「脳内の太い血管ではなく、毛細血管が詰まってしまふもので、高血圧、高コレステロール、糖尿病などの持病がある人によく見られるものです」(同)

病につながるような不規則な食生活、それに喫煙は、高コレステロールや高血圧などにも影響し、合わせて動脈硬化が進んでしまうこともあります」

では、どんな生活が糖尿病につながるのか。

「食事のリズムが不規則で、一度にたくさん食べがちだとか、夜遅くに食べてすぐに寝てしまう、お酒を週5日以上飲む、歩くのは1日2000歩以下、といったことが挙げられます。西城さんはコンサートなどで激しく動いたあと、暴飲暴食

しがちだったそうですが、血糖値が急激に上下に変動する原因になり、動脈硬化が進むことにもなります」

秀樹の体型に無縁なように思える糖尿病だが、I型とII型があり、I型は比較的若く、やせ型の人が罹患しやすく、インシュリン不足で症状が急激に現れるケースが多いのだという。

いずれにせよ、美紀さんと、現在高1、中3、中2の子どもたちとの暮らしは常に病気との戦いだった。

だから、とりわけ2度目の脳梗塞を発症して以降、口にするのは家族への思いばかりだった。その翌年の12年8月、BS日テレの番組で秀樹がフラワーアレンジメントに挑戦した際、指導した女性が回想する。

「お花もご自身で選ばれたのですが、『薔薇の鎖』という歌からも真っ赤なバラをイメージしていたら、トルコキキョウとか楚々とした花を選ばれましたね。それを活かせるのも、滅多にいないレベルでセンスがいいんです。自分を支えてくれて

いる奥様と3人のお子さんに感謝していて、その気持ちを表すために活けるんだとおっしゃって、だからこそ真剣だったんですね」

本人が言うには、リハビリを頑張るのも、歌手活動を続けるのも、まずは家族のため。つけ加えれば、同じ病気の人を勇気づけるため、でもあった。

「4月14日、栃木県足利で行われた。同窓会コンサートでは調子がよく、体調がすぐれないときは座って歌うこともありましたが、この日は『ブーメラン』などトリート『激しい恋』など5曲とアンコールの『ヤングマン』を立てて歌いました。4年後のデビュー50周

いた。4年後のデビュー50周年に向けてリハビリに専念するため、今年の仕事をサポートする意向でした」(コンサートを主催した三貫エー・ジェンシーの小川茂雄代表)

先を、先を、と考えながら、日々、リハビリに取り組んでいたが、

「心房細動や不整脈などの病気が隠れていて、心臓から血の塊が脳に飛んでいくこともあり。西城さんも心臓になんらかの持病があった可能性があり、リハビリで負担が蓄積し、急性心不全が起きた可能性も考えられます」(工藤院長)

家族のための努力が、家族を悲しませる結果につながったとしたら、秀樹の無念はいかばかりだろうか。

「4月14日、栃木県足利で行われた。同窓会コンサートでは調子がよく、体調がすぐれないときは座って歌うこともありましたが、この日は『ブーメラン』などトリート『激しい恋』など5曲とアンコールの『ヤングマン』を立てて歌いました。4年後のデビュー50周年

灵芝ご愛飲の皆様へ、おトクなニュースです!

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも研究用に採用された

高品質 飛驒灵芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい、そう考えたから、この価格が実現しました。三十年以上にわたる科学的な研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛驒灵芝」です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用灵芝として採用されています。*「飛驒灵芝」は商標です。

1kg(約30) 30,000円
500g 17,000円(送料別)

だから長期愛飲者こそ、自信を持ってお勧めします。

ご注文 0120-32-0963

http://www.dai-i-yakusan.co.jp/

飛驒灵芝 第一薬産 検索

第一薬産株式会社 〒506-0003 岐阜県高山市木母町59